

# 豊田市水道ビジョン

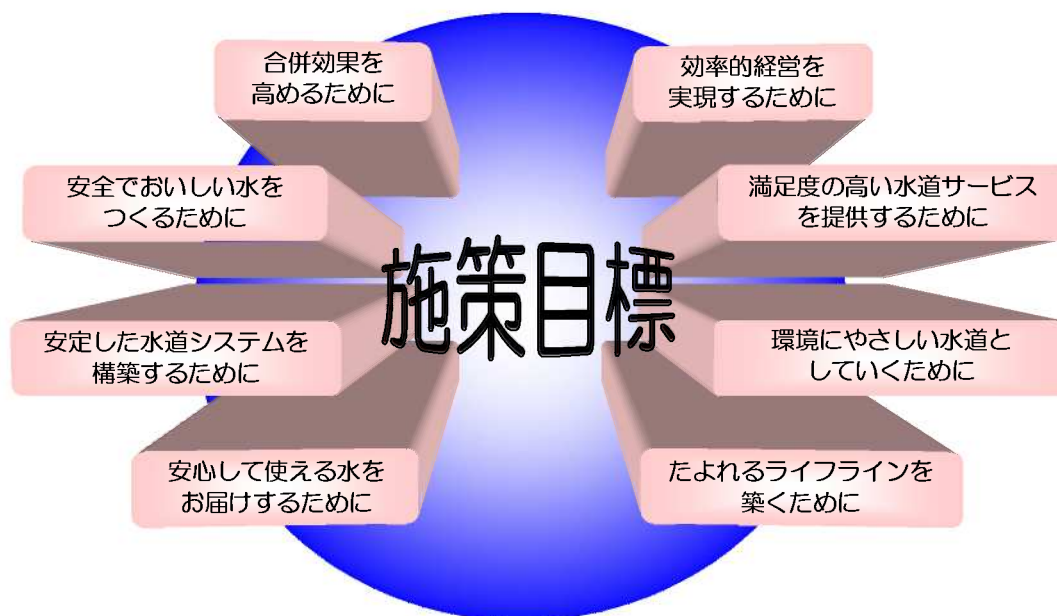
## 進捗状況報告書

豊田市上下水道局

### 「豊田市水道ビジョン」とは

「豊田市水道ビジョン」は、計画期間を平成19年度から平成30年度とした、豊田市水道事業計画です。

このビジョンでは、お客様（市民）の目線でとらえた課題に対処するための施策目標を8項目に絞り、これに対する22の具体的施策を掲げています。具体的施策では基準年を平成17年度とし、平成19年度から4年毎に平成22年度、平成26年度及び平成30年度の目標値を設定しています。



### 進捗状況

平成22年度の進捗状況は、「計画以上」が10施策、「計画通り」が6施策、「遅れ」が6施策となりました。引き続き平成30年度の目標達成に向けて積極的に取り組んでまいります。

水道事業は、お客様の生活や社会活動を支える重要なライフラインであり、安心、安定、安価な水を持続的に供給することが求められています。今後も、この「豊田市水道ビジョン」で掲げる「いつでも たよれる ライフライン 水道」を基本理念に、水道事業をさらに発展、充実させてまいります。

#### (1) 合併効果を高めるために

豊田市水道ビジョンP27 参照

具体的施策	指標の定義	目標実績	基準年 H17	4年後 H22	8年後 H26	12年後 H30	H22 進 捗状況	経緯と今後の方針
(ア) 給水区域の 再編及び事 業の統廃合	事業統合率＝ 削減数／(事業(現 有数)－事業(目標 数))×100 (単位：%)	目標	—	64.7 11事業 減	70.6 12事業 減	100.0 17事業減	遅れ	簡易水道事業の統合を 一部平成24年4月に延伸 したため、計画より1事業 減となりました。今後は、 計画通り平成29年4月に 全簡易水道事業を上水道 事業に経営統合する予定 です。
		実績	0.0	58.8 10事業 減				

## (2) 安全でおいしい水をつくるために

豊田市水道ビジョンP28～30 参照

具体的施策	指標の定義	目標 実績	基準年 H17	4年後 H22	8年後 H26	12年後 H30	H22進 捗状況	経緯と今後の方針
(ア) 水源（原水） の水質の保 全対策	1水源当り監視回数 ＝原水水質監視回 数／水源数 （単位： 回／1水源・年）	目標	—	2.0	2.0	2.0	遅れ	水道法では年1回の検査 が義務付けられています が、水源環境の監視を強化 する目的で、年2回実施す る目標を掲げました。今後 は検査体制の充実を図り、 早期に2回／1水源・年の 検査を目指します。
		実績	1.0	1.7				
(イ) 自己水の保 全対策	自己保有水源率＝ （自己保有水源水 量／全水源水量）× 100 （単位：％）	目標	—	31.4 維持	31.4 維持	31.4 維持	計画 以上	自己水源を新たに確保す ることは容易ではありません。 したがって、渇水時や 災害時にも安定した水量を 確保するために、自己保有 水源の維持に努めます。
		実績	31.4	31.6				
(ウ) 安全でおい しい水づく り	残留塩素濃度測 定・注入設備数＝ （残留塩素濃度測 定・注入設備数／給 水区域面積）×100 （単位： 箇所/100km <sup>2</sup> ）	目標	—	17.2 98箇所	17.9 102箇所	17.9 102箇所	計画 以上	注入設備数は、既に平成 30年度の目標値を越えて いますが、今後も、必要に 応じて注入設備の適正配置 に努め、塩素濃度のムラを 無くし、安全でおいしい水 の供給に努めます。
		実績	17.2 98箇所	18.3 104箇所				
(エ) 水質管理方 法及び技術 の向上	水質検査箇所密度 ＝（水質検査採水箇 所数／給水区域面 積）×100 （単位： 箇所/100km <sup>2</sup> ）	目標	—	13.7 78箇所	17.2 98箇所	19.9 113箇所	計画 以上	給水区域の状況に応じ た水質検査箇所を選定し、 毎日の水質検査箇所数を増 やすことで、安全性を高め てきました。今後も検査体 制の充実を図り、検査箇所 の増加に努めます。
		実績	13.4 76箇所	15.3 87箇所				

## (3) 安定した水道システムを構築するために

豊田市水道ビジョンP31 参照

具体的施策	指標の定義	目標 実績	基準年 H17	4年後 H22	8年後 H26	12年後 H30	H22進 捗状況	経緯と今後の方針
(ア) 配水区域の 再編	都市の発展に伴い、 水運用上や災害対 策上から配水区域 の見直しを実施し ているか。実施し ている場合は、その実 施時期と内容。	目標	—	豊田配 水場周 辺	秋葉地 区	中切地区 ほか	計画 通り	今後も目標に沿って、配 水区域の見直しを実施しま す。
		実績	—	豊田配 水場周 辺				

## (4) 安心して使える水をお届けするために

豊田市水道ビジョンP32～34 参照

具体的施策	指標の定義	目標 実績	基準年 H17	4年後 H22	8年後 H26	12年後 H30	H22進 捗状況	経緯と今後の方針
(ア) 貯水槽（受水 槽）水道への 関与	貯水槽（受水槽）水 道の適正管理への 関与率＝（関与し た受水槽数／受 水槽総数）×100 （単位：％）	目標	—	100.0	100.0 継続	100.0 継続	遅れ	平成22年度までに小規模 貯水槽施設者（10 m <sup>3</sup> 以下） にアンケート調査や現地調 査を実施し、適正管理を広 報しました。今後は、10 m <sup>3</sup> 以上の設置者を含めた積極 的な関与体制を整え、水質 管理の指導・助言に努めま す。
		実績	1.5	64.2				

(イ) 直圧給水の 促進	直圧給水率＝ (直圧給水件数／ 給水件数)×100 (単位：％)	目標	—	77.0	78.0	80.0	計画 以上	給水区域の再編や3階直 圧給水への助言等により、 直圧給水率が向上しまし た。今後も貯水槽水道から 直圧給水への切替え等を促 進し、水質の信頼性向上に 努めます。
		実績	75.7	78.9				
(ウ) 給水装置へ の関与	出水不良率＝ (出水不良戸数／ 給水戸数)×100 (単位：％)	目標	—	0.030	0.015	0.0	計画 以上	豊田市では、昭和63年度 まで使用していたポリエチ レン管(1層管)で、詰まり による出水不良が起きてい ます。今後も水道管の布設 替等により、出水不良の削 減に努めます。
		実績	0.045	0.027				

### (5) たよれるライフラインを築くために

豊田市水道ビジョンP35～37参照

具体的施策	指標の定義	目標 実績	基準年 H17	4年後 H22	8年後 H26	12年後 H30	H22進 捗状況	経緯と今後の方針
(ア) 水道施設の 災害対策	主要施設の地震対 策率＝ (地震対策された 主要施設数／全主 要施設数)×100 (単位：％)	目標	—	35.4 112箇所	37.3 118箇所	39.2 124箇所	計画 以上	ビジョンの目標値は、旧 耐震規準に基づき耐震性が あると判定し、地震対策を 行った率です。今後は、新 耐震基準に基づく耐震診断 結果により、耐震化計画の 見直しを行い、耐震化を促 進します。
		実績	29.4 93箇所	37.6 120箇所				
(イ) 水道施設の 計画的な更 新	管路の更新率＝ (更新された管路 延長／管路総延長) ×100 (単位：％)	目標	—	1.20	1.20	1.20	計画 通り	管路の更新延長は、経済 情勢や管路口径によって大 きく変動する可能性があります。今後も老朽度、重要 度を踏まえて年間40km以 上の更新を目指します。
		実績	1.20	1.20				
(ウ) 災害時の体 制	給水拠点密度＝ (配水池・緊急貯水 槽数／給水区域面 積)×100 (単位： 箇所/100km <sup>2</sup> )	目標	—	4.6 26箇所	4.9 28箇所	4.9 28箇所	遅れ	応急給水支援設備や災害 拠点給水施設を平成19年 度までに5箇所設置しまし た。今後は、災害時に応急 給水が可能な拠点給水施設 を施設更新時等の整備にあ わせ、5箇所増設します。
		実績	3.2 18箇所	4.0 23箇所				

### (6) 環境にやさしい水道としていくために

豊田市水道ビジョンP38～39参照

具体的施策	指標の定義	目標 実績	基準年 H17	4年後 H22	8年後 H26	12年後 H30	H22進 捗状況	経緯と今後の方針
(ア) 環境負荷の 低減	配水量1m <sup>3</sup> 当り二 酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出 量＝[総二酸化炭 素(CO <sub>2</sub> )排出 量／年間配水量] ×10 <sup>6</sup> (単位：g・CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup> )	目標	—	156.6	156.6	153.3	計画 以上	豊田市は、平成21年1月 に「環境モデル都市」に指 定されました。世界の先 例となる低炭素社会への転 換を推進し、温室効果ガス 排出の大幅な削減など低炭 素社会の実現に向け、今後 も積極的に取り組めます。
		実績	162.6	133.5				
(イ) 新エネルギ ーの活用	新エネルギー利用 電力量＝ 新エネルギー設備 による発電量／日 (単位：kWh/日)	目標	—	0.25	1.00	235	計画 以上	平成21年度に上水運用セ ンター正門付近に風力・太 陽光発電を導入しました。 平成22年度は、上水運用セ ンター屋上に太陽光発電を 導入しました。今後も新エ ネルギーの活用に努めます。
		実績	0.00	16.57				

(7) 満足度の高い水道サービスを提供するために

豊田市水道ビジョンP 40～42 参照

具体的施策	指標の定義	目標 実績	基準年 H17	4年後 H22	8年後 H26	12年後 H30	H22 進 捗状況	経緯と今後の方針
(ア) 適正な水道 料金の設定	水道事業の収支状 況から4年ごとの 水道料金体系の見 直し、改定を行っ ています。	目標	—	現行料 金水準 維持	現行料 金水準 維持	現行料 金水 準維持	計 画 通 り	現在、平成10年4月の料 金体系を維持しています。 今後も、現状の料金体系を 維持するよう、健全経営に 努めます。
		実績	現行料 金水準 維持	現行料 金水準 維持				
(イ) 相談窓口	水道サービスに対 する苦情割合＝ (水道サービス苦 情件数/給水件数) ×1,000 (単位：件/1,000 件)	目標	—	14.30	10.73	7.15	計 画 以 上	水道施設見学や広報誌な どを活用して、水道事業へ の理解を深めてきました。 今後も水道のPRや、計画 的な施設更新等を行うこと で、苦情件数の削減に努め ます。
		実績	17.88	12.99				
(ウ) 水道のPR	水道事業に係る情 報の提供度＝ 広報誌配布部数 /年・戸 (単位：部/年・戸)	目標	—	2.0	2.0	2.0	計 画 通 り	今後も年2回「とよたの 上下水道」の発行を維持し ます。
		実績	2.0	2.0				
(エ) 地域貢献	水道施設見学者割 合＝ (見学者数/給 水人口)×1,000 (単位：人/1,000 人)	目標	—	0.80	0.90	1.00	計 画 以 上	今後も市民団体や小学生 の水道施設見学を積極的に 行います。
		実績	0.73	1.13				
(オ) 国際貢献	国際交流数＝年 間人的受入件数 (単位：件)	目標	—	1	1	1	遅 れ	平成22年度は、JICAの交 流制度が廃止されたため受 け入れを行いませんでした。 今後は、他の交流事業 での対応を検討します。
		実績	1	0				

(8) 効率的経営を実現するために

豊田市水道ビジョンP 43～44 参照

具体的施策	指標の定義	目標 実績	基準年 H17	4年後 H22	8年後 H26	12年後 H30	H22 進 捗状況	経緯と今後の方針
(ア) 効率的執行 体制の構築	給水人口10,000人 当り職員数＝ (全職員数/給水 人口)×10,000 (単位：人)	目標	—	2.3	2.3	2.3	計 画 通 り	災害時の迅速な対応や水 道サービスの維持などを考 慮し、今後は現在の職員数 の維持に努めます。
		実績	2.6	2.3				
(イ) 人材の育成 と技術の伝 承	内部研修時間＝ (職員が内部研修 を受けた時間・人 数)/全職員数 (単位：時間)	目標	—	27.0 継続	27.0 継続	27.0 継続	遅 れ	水道事業への異動職員研 修等、内部研修の充実を図 ります。
		実績	27.0	24.8				
(ウ) 健全な財務 体質の確保	営業収支比率＝ (営業収益/営業 費用)×100 (単位：%)	目標	—	健全 経営	健全 経営	健全 経営	計 画 通 り	収益が100%を超えてい るため維持できていますが、 施設の老朽化に伴い修繕費 や維持管理費がかさんで きます。今後もコスト縮減 や経営改善を実施し、一層 の健全経営に努めます。
		実績	116.79	健全 経営 103.82				